

2026年度 大学生・大学院生向け国際協力理解講座
 プログラムNo.1 国際協力実務講座 プログラム概要

※諸般の事情により、講師やプログラム内容・時間・順序等が変更になることがあります。

1. 基本情報

1) プログラム名:	大学生・大学院生向け国際協力実務講座
2) 担当者名:	八星 真里子
3) 期間(日数):	2026年8月24日(月)～8月28日(金) 5日間
4) 参加者数:	35名(予定)
5) 言語:	日本語
6) 主な対象学生:	国際協力について関心があり、将来、開発途上国の援助に従事したいと希望する大学生・大学院生 専門分野は特に問わない。

2. コンテンツ

本プログラムの目的	<p>【受講時の目的】 受講者が国際協力人材に必要な資質・能力の基礎を習得すること。そのために、国際協力実務経験者からの講義、国際協力や社会課題解決に深く関連したワークショップ等を通じて、以下の学びを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際協力の潮流、各事業の特徴や主要アクターの役割や関わり方を理解する。 情報を収集し、多角的かつ論理的に課題を分析する際に必要な基本的な考え方を理解する。 多様な関係者と協働し、期間内に目標を達成するためのプロジェクトレベルのマネジメントの基礎を理解する。 異なる背景を持つ相手との対話や、チーム内での合意形成に必要なコミュニケーションのスキルを向上させる。 多様なキャリアパスを知り、自身の適性や専門性をどう活かせるか、ビジョンを描くことができるようになる。
	<p>【受講後の期待】 受講者が、将来的に国際協力の担い手やグローバル人材として、持続可能な社会の構築に貢献すること。</p>

3. 日程表

1日目: 2026年8月24日(月)

対面開催(オンライン出席可)

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	10:00-10:50	主催者挨拶 オリエンテーション	JICA筑波 ジーエルエム・インスティ チュート(GLMi)	●プログラムの目的・流れを理解する ●参加者の緊張を和らげる ●参加者が互いの背景や関心を把握する
	10:50-11:00	休憩		
	11:00-11:50	日本の国際協力を通じた世界の課題解決への貢献 ～ODAの「基本のき」を学ぶ～	JICA筑波	●国際社会で取り組むべき課題は幅広く、複雑化していることを理解する ●日本の国際協力の目的、方針等を理解する。 ●主要なODA事業の特徴を理解する。
	11:50-12:00	休憩		
	12:00-13:00	日本の国際協力を通じた世界の課題解決への貢献 ～特定の地域の事例から解決の方策を考える～	JICA地域部	●特定の地域を事例に、ODAの戦略や主要なODA事業での課題解決の事例を知る ●主要なODA事業の案件の形成から開始まで、プロジェクトの基本的な流れや実施体制を理解する
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-14:50	JICA現地事務所の仕事	JICA現地事務所	現地でJICA事業の計画・立案や調整を担う職員がどのような仕事をしているのかを知る
	14:50-15:00	休憩		
	15:00-15:50	多様な国際協力アクター	JICA筑波 または人事部	●NGO等の市民社会や民間企業も国際協力に取り組む重要なアクターであることを理解する ●JICAがあらゆるアクターとの連携を構築し、発展させていることとその有効性を理解する ●国際協力でのキャリア形成を知る
	15:50-16:00	事務連絡	GLMi	

2日目: 2026年8月25日(火)

対面開催(オンライン出席可)

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	10:00-10:30	前日の振り返り・シェアリング	GLMi	獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	10:30-11:20	JICA×市民の取り組み	JICA筑波	●JICA海外協力隊事業の目的・応募方法、選考から帰国後までの流れ等を知る ●JICAのNGOや地方自治体、大学等への活動支援や草の根技術協力事業の目的・特徴等を知る ●国際協力への理解の促進の取り組みを知る
	11:20-11:30	休憩		
	11:30-12:30	JICA海外協力隊経験者との対話と交流	元JICA海外協力隊員	●JICA海外協力隊の活動や得られる経験を知る ●帰国後の進路や可能性を知る
	12:30-13:30	昼休憩		
	13:30-15:00	NGOの現場から学ぶ課題解決のアプローチ	草の根技術協力事業の実施経験のあるNGO	特定のNGOのプロジェクトが何を指し、どのようなアプローチで課題を解決し、日々どのような仕事をしているのかを知る
	15:00-15:10	休憩		
	15:10-15:40	JICA×民間企業の取り組み	JICA筑波	●JICA民間連携事業の目的・特徴等を知る ●企業との共創を通じた課題解決の可能性を知る
	15:40-16:40	民間連携事業の事例から学ぶ「Win-Win」の関係構築	民間連携事業の実施経験のある企業	特定の民間連携事業が何を指し、どのように製品・サービスを活用し、日々どのような仕事をしているのかを知る
	16:40-16:50	事務連絡	GLMi	

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	10:00-10:30	前日の振り返り・シェアリング	GLMi	獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	10:30-11:30	「共創」のちからを育むJICAの本邦研修	JICA筑波	●JICA本邦研修の概要を知る ●特定の研修コースが何を指し、どのような活動を行い、どのような内容を学んでいるのかを知る
	11:30-11:40	休憩		
	11:40-12:30	JICAつくば地球ひろば「世界の食と農」・研修コース・圃場見学	JICA筑波	●体験型展示・JICAつくば地球ひろばを見学し、JICAや国際協力について学ぶ ●研修員の日本で学ぶ様子を知る
	12:30-14:00	途上国から学びに来ている研修員とのランチ交流会	JICA研修員	●研修員の出身国や本人の業務・研究について知る ●研修員と意見を交換する・交流する
	14:00-15:30	開発コンサルタントの仕事	開発コンサルタント	●特定のJICAプロジェクトが何を指し、どのようなアプローチで課題を解決し、日々どのような仕事をしているのかを知る ●プロジェクトでのJICAとの協働について知る
15:30-15:40	事務連絡	GLMi		

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	09:30-10:00	グループアイスブレイク・前日の振り返り ※バスの時間との兼ね合いで、揃い次第開始	GLMi	●参加者がさらに互いの背景や関心を把握する ●獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	10:00-13:00	PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）「計画・立案」体験研修①	開発コンサルタント （前日とは異なる講師）	●PCMに対する理解を確保する ●PDM全体の読み方とPOの重要性を理解する ●問題分析の手順・留意点を理解する ●目的分析の手順・留意点を理解する ※PCM手法の要点を体験的に学びます（以下同）
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-17:00	PCM「計画・立案」体験研修②	同上	●プロジェクト選択の手順・留意点を理解する ●PDM要約・投入の手順・留意点を理解する
	17:00-17:10	事務連絡	GLMi	

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	09:30-10:00	前日の振り返り・シェアリング ※バスの時間との兼ね合いで、揃い次第開始	GLMi	獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	10:00-12:00	プロジェクト案の発表・フィードバック （作成したプロジェクトのロジックモデル）	開発コンサルタント	●計画立案での重要な視点や考え方を理解する ●立案したプロジェクトの良い点や課題を知る
	12:00-13:00	昼休憩		
	13:00-15:00	未来を描くキャリア相談会	JICA職員・専門員、国際農研研究員、開発コンサルタント、NGO等	●国際協力分野の仕事の種類や必要な能力・経験・スキル、キャリアパスの例等を知る ●キャリアについて相談する機会を得る
	15:00-15:20	休憩		
	15:20-16:40	最終の振り返り・シェアリング （学びと将来像）	GLMi	講座で得た学びと将来に向けた意識を他の参加者と共有し、今後に向けてのモチベーションとヒントを得る ●講座全体を通じて、どのような学びを得たか ●講座での経験をどのように活用しようと考えているか ●将来、自分自身はどのようにありたいか
	16:40-17:00	閉会の言葉 事務連絡・アンケート回答	JICA筑波 GLMi	

3. 留意事項

- ・国際協力に関する基礎的な知識を得ると共に、国際協力の実務について学べる内容です。
- ・ディスカッション、ワークショップなど参加型のセッションでは、積極的に参加する姿勢を求めます。
- ・構成の順番や詳細、テーマ名、講師などは上記から変更になる可能性があります。
- ・原則、全日程の出席が必要となります。
- ・発熱、咳、咽頭痛、息苦しさ、味覚・嗅覚異常などの症状がある、体調がすぐれない、強い疲労感や倦怠感がある場合は、参加をご遠慮ください。
- ・対面参加の日は、終了後に参加者間などで交流することも可能ですので、公共交通機関の状況も踏まえて、時間の余裕を確保してください。

4. 学生さんへ一言

将来、国際協力に関わりたい、グローバルな環境で仕事がしたい、社会に貢献できるキャリアを重視したいなど、積極的な学生の参加を歓迎します。授業で学ぶ国際協力以外にも現場レベルでの国際協力の取り組みについて学びたいと考える人にお勧めです。

プログラムNo. 2 : 小規模農家の生計向上のための野菜生産技術コース プログラム概要票

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名 :	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術
2) 担当者名 :	篠原 美恵子 (研修コース委託先業務総括 : 五百木 氏)
3) 期間 (日数) :	2026年7月21日 (火) ~ 2026年7月24日 (金)
4) 定員 :	最大受入人数 4人
5) 言語 :	英語 (実施内容を英語実施のため理解できること) ※目安 (TOEIC600点、TOEFL510点「CBT180点/iBT64点」、IELTS5.0程度)
6) 主な対象学生 :	野菜栽培分野に興味・関心のある生物学系、農学系、開発学 (但し、農業に係るフィールドを基礎) 関係の3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	マレーシア (1)、ラオス (1)、モルディブ (1)、ネパール (1)、スリランカ (2)、パプアニューギニア (1)、トンガ (1) ※ () 括弧内は人数

2. コンテンツ

本プログラムの目的	講義及び実習を通じて、主要な野菜の栽培技術等の基本を理解する。
-----------	---------------------------------

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要 (狙い)
1	2026/7/21	火	09:15-09:30	ブリーフィング		
			09:30-12:00	燻炭作成	実習	穀物の有効利用として実際に燻炭の作成を実施する。
			13:30-16:00	トマト採種 (摘果、採種、発酵準備)	実習	トマトの採種技術を実習する。種子の抽出・発酵・乾燥の過程を学ぶ。
2	2026/7/22	水	09:30-12:00	直売実習準備 (POP作成、収穫、梱包等)	実習	直売実習のためのポップ作成、包装等を前々日 (22日) の検討を踏まえて準備する。
			13:00-13:30	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り (受講者から所感、質疑含め)。
			13:30-17:30	直売実習 (POP作成、梱包、売場作り等)、模擬店開店 (4:30~5:30)	実習	模擬店を準備・陳列し、販売実習する。
3	2026/7/23	木	09:30-12:00	土壌伝染性病害防除実験 3 (病斑観察)	実習	病理実験室で各種の病斑の観察、顕鏡を行う
			13:30-16:00	直売実習振り返り トマト採種 (種子洗浄・乾燥調整)	実習	直売実習の結果を振り返る。 発酵によりゼリー除去したトマト種子を洗浄、乾燥する。
4	2026/7/24	金	09:30-12:00	JICA公開プログラム「ちびっ子博士」 11:00-12:00 (準備 09:30-11:00)	実習	JICA筑波の公開イベント「スイカ博士」の準備と実施 (開始10:30)。来場した小学生にスイカの基本知識を紹介し、糖度測定を体験させる。
			13:30-16:00	個別実験管理/データ集計・統計処理	実習	研修員が自国の職場で直面している野菜栽培課題に関連する栽培実験。栽培管理やデータ計測を行う。
			16:15-17:15	報告発表		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・特に朝の開始は時間厳守とします。 ・日程については、今後の研修日程の都合・天候対応などで変更の可能性があります。 ・圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴 (作業着及び長靴等) を準備してください。また、講義の日でも作業が出来る服装をお願いします。 ・日没まで作業をしていただくこともあります。
--

4. 学生さんへ一言

一日の実習・講義終了後には、研修員と一緒に圃場をまわってください。研修員が取り組んでいる実習について説明してくれますので、意見交換など交流を図っていただければと思います。

5. その他

講座最終日 (予定) には、各受講生には、プログラム中の学びについて研修員等に対し、プレゼンテーション (英語) をさせていただきます。
--

プログラムNo. 3: 「市場志向型農業振興 —SHEPアプローチ— (普及員)」コース プログラム概要票

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名:	市場志向型農業振興 —SHEPアプローチ— (普及員)
2) 担当者名:	根本 拓哉 (研修コース委託先業務総括: 中田氏)
3) 期間 (日数):	7月21日 (火) ~24日 (金) の4日間。 希望者は8月19日 (水) または9月9日 (水) の各発表会にも参加可能。
4) 定員:	受入人数 3~4人
5) 言語:	英語 (実施内容を英語で理解できること) ※目安 (TOEIC650点程度)
6) 主な対象学生:	農学系または、開発学関係学部 (但し、生物資源生産等に係るフィールドを基礎) 在籍で、園芸作物栽培分野に興味・関心のある学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国:	ボツワナ(1)、エチオピア(1)、ガーナ(1)、レソト(1)、ナイジェリア(1)、スーダン(2)、タンザニア(2)、ウガンダ(1)、ジンバブエ(1) ※ () 括弧内は人数

2. コンテンツ

本プログラムの目的	園芸作物栽培技術に係わる実験実習を研修員と共に体験し、研修員との交流を通じて研修員の出身国に対する理解を深める。
-----------	--

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要
1	2026/7/21	火	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	鮮度保持試験 (処理区の設定)	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
			13:30-16:00	メロン品種比較試験 (収穫調査) / カボチャの出荷調整	実習	品種比較試験のメロンを収穫する/ 前週に収穫したカボチャ出荷調整をする
2	2026/7/22	水	09:45-12:15	メロン品種比較試験 (果実調査)	実習	品種特性を理解するため、果実の形態について測定する
			13:30-16:00	メロン品種比較試験 (食味試験)	実習	品種特性を理解するため、消費者の視点で果実食味を評価する
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り (受講者から所感、質疑含め)
3	2026/7/23	木	09:45-12:15	間引きによる出荷規格調整 (収穫)	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
			13:30-16:00	間引きによる出荷規格調整 (出荷調整)	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
4	2026/7/24	金	09:45-12:15	カボチャ出荷実習振り返り	実習	カボチャの出荷・競りの結果を踏まえて、栽培における改善点などを検討する
			13:30-16:00	個別課題/プログラム発表資料作成	実習	各研修員が取り組んでいる個別課題学習について研修員から説明を受け、内容について理解する。 プログラム振り返りにおいて発表する資料の準備にあたる
			16:15-17:15	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> 上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。 圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴 (作業着及び長靴等) を準備してください。 開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。
--

4. 学生さんへ一言

<ul style="list-style-type: none"> アフリカからの研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムにしたいと思います。 コミュニケーション手段は英語です。臆せず積極的にご参加ください。 各研修員が取り組んでいる個別課題学習について、興味ある分野・国があれば、積極的に聞き取りを行うなど交流を図って下さい。

5. その他

上記7月21日 (火) から7月24日 (金) の4日間をプログラム期間とし、その他に8月19日 (水) に開催する「共通実験に係わるポスター発表会」または9月9日 (水) の「個別課題レポート発表会」に参加することも可能。
--

2026年度 JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座(案)
プログラムNo.4：稲作技術向上（普及員） プログラム概要票

別紙1-④

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名：	稲作技術向上（普及員）コース
2) 担当者名：	落合 智佳子（研修コース委託先業務総括：宍戸氏）
3) 期間（日数）：	8月31日（月）～9月4日（金） 5日間
4) 定員：	受入人数 2人程度
5) 言語：	英語（英語で研修を実施しているため講義や通常の会話を理解できるレベル）※目安（TOEIC 600点程度） 必ずしもTOEIC等の点数が十分でなかったとしても、積極的に研修員と言語・非言語のコミュニケーションを取る姿勢を有すること。
6) 主な対象学生：	大学学部3年生以上または大学院生（修士）が望ましい。
7) 研修員の出身国：	ガーナ(1)、リベリア(1)、マラウイ(1)、ウガンダ(1)、カメルーン(1、女性)、モザンビーク(2、内1人女性)、南スーダン(1)、エチオピア(1) ※（）括弧内は人数

2. コンテンツ

本プログラムの目的	実験・実習を通してJICAの技術援助活動の現場（稲作技術向上）を理解する。研修員との交流を通じて相互理解をはかる。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	概要
1	2026/8/31	月	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション（日本語）	関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-09:40	大学生講座参加者の自己紹介	
			09:45-12:15	実験/実習（収穫及び収量調査）	
			13:30-16:00	実験/実習（収穫及び収量調査）	
2	2026/9/1	火	09:45-12:15	農村社会調査の基礎 ①（講義）	・農業改良普及員として必要な農家への聞き取り調査とそのデータ分析の方法を学ぶ。 ・スマホを使い距離や面積を測定する方法を習得する。 ・その他
			13:30-16:00	農村社会調査の基礎 ②（講義）	
3	2026/9/2	水	09:45-12:15	農村社会調査の基礎 ③（講義）	
			13:30-16:00	農村社会調査の基礎 ④（講義）	
			17:00-17:30	中間レビュー（日本語）	
4	2026/9/3	木	09:45-12:15	実験/実習（収穫及び収量調査）	
			13:30-16:00	実験/実習（収穫及び収量調査）	
5	2026/9/4	金	09:45-12:15	実験/実習（収穫及び収量調査）	
			13:30-16:00	実験/実習（収穫及び収量調査）	
		16:15-17:15	プログラム振り返り（英語）	プログラムでの学び等を発表	

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none">・上記日程表は現時点での案であり、稲の生育状況、天候等の都合により変更の可能性があります。・JICA筑波の圃場または筑波大学農場における作業（収穫及び収穫前の収量調査やサンプリング作業がメイン）を行いますので、研修員同様に水田内に入り稲刈り鎌をします。そのため長靴（田植え長靴ではない通常のゴム長靴）と作業手袋、汚れてもよい作業服、帽子、雨除けのレインコートを持参してください。・稲刈りの機械実習では安全のため髪のは長い方は対策をお願いします（束ねるか三つ編みにして帽子内に収めるなど）。また機械の扱いに危険な服装や身なりと判断される方は、代わりに機械を扱わない他の作業を行っていただきます。・開始時間には時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。

4. 学生さんへ一言

国内での国際協力の現場を体験できます。研修を実施している関係者や研修員と積極的に関わるにより、稲作技術以外にも多くのことを学べる実りあるプログラムです。研修は英語で行われているために研修員とは英語でのコミュニケーションになりますが恐れず積極的な参加を期待します。

5. その他

・対象者は一定の自然科学的知識（簡単な生物学の知識）を有している学生を想定していますが、この期間中の研修はそれほど高度な内容を含んでおりません。そのために文系の学生さんでも心配なく参加できると思います。

プログラムNo.5:「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コース プログラム概要票

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名:	天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術
2) 担当者名:	松井 駿 (研修コース委託先業務総括: 浦山氏)
3) 期間(日数):	8月31日(月)~9月4日(金)5日間
4) 定員:	受入人数4人程度
5) 言語:	英語(実施内容を英語で理解できること) (※目安 TOEIC 550点以上程度)
6) 主な対象学生:	生物学系、農学系、開発学(但し、農業に係るフィールドを基礎)関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国:	フィリピン(1)、パプアニューギニア(1)、エチオピア(1)、ガンビア(1)、マラウイ(1)、ザンビア(1)、カメルーン(1)、コートジボワール(1)、モザンビーク(1)、セネガル(1)、ジンバブエ(1) ※ () 括弧内は人数

2. コンテンツ

本プログラムの目的	アフリカのネリカ稲(NERICA)を含む稲の栽培、種子生産、品種選定について学び、コメ生産を通じてアジア・アフリカ地域の貧困問題、食糧の安定供給について考えます。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形式	概要
1	2026/8/31	月	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:45-12:15	共通実験2:優良種子純度淘汰試験調査 抜き取り	実習	種子生産圃場における同一品種ではない異形、混ざり品種の抜き取り
			13:30-16:00	共通実習1:純系統及び原原種圃場収穫1	実習	純系統及び原原種種子の収穫作業
2	2026/9/1	火	09:45-12:15	見学:茨城県農業振興公社4	見学	日本の稲種子生産システムについて
			13:30-16:00	共通実験:品種比較試験調査(6)	実習	稲の品種登録に関わる品種特性の調査
3	2026/9/2	水	09:45-12:15	日本の稲の品種改良2	講義	日本の稲の品種改良(育種)技術と歴史について
			13:30-16:00	グループ実験1:窒素施肥量試験収量調査	実習	実験圃場での収量調査
4	2026/9/3	木	09:45-12:15	NERICAの特性と品種改良1	講義	NERICAの特徴とこれまで実施されたIBICでの実験・実習の結果について
			13:30-16:00	グループ実験1:窒素施肥量試験収量調査	実習	実験圃場での収量調査
5	2026/9/4	金	09:45-12:15	NERICAの特性と品種改良2	講義	NERICAの特徴とこれまで実施されたIBICでの実験・実習の結果について
			13:30-16:00	筑波大見学:玄米品質調査	見学	コメの品質評価方法について
			16:15-17:15	プログラムの振り返り		国際協理解講座のプログラムを体験した結果を発表

3. 留意事項

- ・上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。
- ・実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴を準備してください。
- ・開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。

4. 学生さんへ一言

- ・諸国を代表する研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムであると同時に、途上国の技術者等への指導業務について、知っていただく機会にしたいと思っております。アフリカが抱える食糧問題について皆で考えてみましょう。
- ・英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
- ・自然科学系の内容ですが、食糧生産に関心の高い社会学系(開発系)の方の応募も受け付けます。

5. その他

- ・参加者には、事前に研修員各国の概要など目を通していただければと思います。各国の現状(気候条件や畑作物の作付状況等)や研修員が抱える課題を理解し、関心をもった内容について、講座中はぜひ研修員と積極的に意見交換をしてみてください
- ・実験・実習は畑地が主ですが、小規模な水田(原原種種子生産用)での作業も若干あります。

2026年度 JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座(案)
 プログラムNo. 6 : アフリカ地域農業機械化促進

別紙1-⑥

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名 :	アフリカ地域農業機械化促進
2) 担当者名 :	松井 駿 (研修コース委託先業務総括 : 山口 浩司)
3) 期間 (日数) :	10月26日 (月) ~ 10月30日 (金) 5日間
4) 定員 :	受入人数 5人程度 (最大10人)
5) 言語 :	英語とフランス語 (日本語の説明も適宜あり)
6) 主な対象学生 :	国際協力分野、アフリカ地域の農村社会、外国のコメなどに関心がある学部生、大学院生。専門分野、学年、語学力は問いません。
7) 研修員の出身国 :	ガーナ(1)、ナイジェリア(1)、ザンビア(1)、ブルキナファソ(1)、チャド(1)、コンゴ共和国(1)、コートジボワール(1)、マリ(1)、モザンビーク(1)、セネガル(1) ケニア(2)、ジンバブエ(1) ※ () 括弧内は人数

2. コンテンツ

本プログラムの目的	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ地域の農村社会の発展におけるコメの収穫後処理の役割について、講義・実習・ディスカッションを通じて理解する。 ・アフリカ地域と日本で栽培されるコメの形状の違いをはじめ、籾摺り精米の方法、碎米の発生や分離の仕組み、コメの硬さ (剛性) や水分率などについて学ぶ。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	概要	
1	2026/10/26	月	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション (日本語)	関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等	
			09:30-09:40	大学生講座参加者の自己紹介		
			09:40-12:00	コメ品質検査法と各種機器類の構造と取り扱い	討議	
			13:30-17:00		討議	
2	2026/10/27	火	09:30-12:00	籾摺り・精米および碎米分離などに関する方法	実習	
			13:30-17:00			実習 (測定) 項目 ・籾・玄米・白米の水分含量 ・籾から玄米と白米の歩留まり ・碎米分離と碎米率 ・籾・玄米・白米の粒形 (長さ・幅・厚み) ・被害粒の評価など ・その他 これらに関する各種機器の取り扱いを学ぶ
3	2026/10/28	水	09:30-12:00	上記同様	実習	
			13:30-17:00			上記同様とデータ整理
			17:00-17:30			中間レビュー (日本語)
4	2026/10/29	木	09:30-12:00	上記同様	実習	
			13:30-17:00			上記同様とデータ整理
5	2026/10/30	金	09:30-11:30	発表会に向けて、各グループ内でデータを検討し、整理する。	討議	
			11:30-12:00	試食会	実習	
			13:30-17:00	各グループのデータをもとに発表会 (PPT 使用)	討議	
				プログラム振り返り (英語)		

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・実習では各種の機器類を使用します。安全確保のため整理整頓を心がけ、ケガのないよう必ず研修指導員の指示に従ってください。 ・籾摺り作業では粉塵が多少発生するため、衣服が汚れることがあります。汚れても差し支えない服装で参加してください。 ・日本語の通訳も配置されますが、アフリカ地域の英・仏語圏からの研修員と、英語またはフランス語で積極的にコミュニケーションをとって下さい。 ・実習は、JICA研修員と小グループで実施します。スムーズに進めるため、遅刻や欠席をする場合は、事前に連絡してください。 ・研修中に体調が優れない場合は、無理をせず速やかに研修指導員に申し出てください。 ・研修中の写真撮影や情報・データの取り扱いについては、JICAの指示に従ってください。

4. 学生さんへ一言

アフリカ地域でコメの消費量が増え続けているのはなぜでしょうか。私たちの身近にあるコメを切り口に、アフリカの農村の現状や技術的な課題、そしてこれからの発展について、JICA研修員のみなさんと共に考えていきます。
--

5. その他

最近、日本のコメの価格が気になっていませんか。日本で食べられている丸い粒のコメと、アフリカ地域で一般的な細長いコメには、どのような違いがあるのでしょうか。この研修では、コメの品質検査や籾から白米への加工技術について、アフリカからの研修員 (行政官や技術者) のみなさんと意見交換をしながら、国際協力の現場で求められる知識についても学ぶことができます。
